

月刊 小林のぶゆき

第3号
2011年3月発行号

見える
わかる
変わる
今こそ横須賀を
私たちのものに

無所属35歳



発行人 小林伸行 小林のぶゆき 検索
住所 横須賀市野比2-13-18
☎ 070-6640-3927
FAX 050-3737-1652
✉ info@kobayashinobuyuki.com ↑
Web http://kobayashinobuyuki.com
野比在住。1975年(昭和50年)9月3日生。妻と息子の3人家族。筑波大学卒。地域情報誌勤務の後、環境コンサルティングに携わるが、地域の疲弊と日本の将来を憂い、政治を志す。2008年、政策秘書資格試験合格。衆議院議員長島一由(前逗子市長)公設秘書を経て現在に至る。地域通貨イタチ事務局長など市民活動にも関わる。

第一特集

子育てするならヨコスカで

人口急減 & 超少子高齢化。
そんな横須賀に提案したい投資話

第二特集

ヨコスカ地域再生プラン

まっとうな仕事を増やすため横須賀市でできること

次回予告: 内容は未定ですが、4月中旬にお届けします。

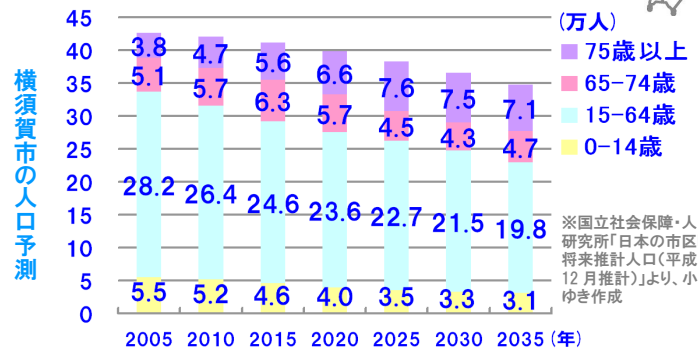
第一特集 子育てするならヨコスカで 人口急減 & 超少子高齢化。 そんな横須賀に提案したい投資話

なぜ、子育て支援に力を入れたいのか?

第1号は保育園、第2号は中学校と、横須賀の遅れた給食事情を取り上げましたが、みなさまから「どうしてそんな小さい問題を扱うのか?」「子育ては親の仕事。行政に頼るな」という声も頂きました。そこで、前回予告した「横須賀さん家の家計簿②借金編」は先延ばしにして、今回は「なぜ子育て支援に力を入れたいのか」をご説明したいと思います。

ヨコスカを「子育て先進都市」ブランドへ

私の狙いは、実は給食だけではありません。もっと大きな目標は「子育てするならヨコスカで」というブランド化です。いま、横須賀市はスゴイ勢いで人口が減っています。



かつて43万5千人だったのが、現在41万7千人。そして10年後には40万人を割り込み、25年後には35万人を切る予測です。つまり、四半世紀でお隣の逗子市(5万8千人)ひとつ分が消えていくイメージです! また、今のままだと、75歳以上は1.5倍に増える一方、14歳以下の子供は4割も減る予測です。この流れを食い止めて、できれば若い世代を中心に人口増に転じれば、税収や社会保障も助かり、活気もです。ですから、特に子育て世代を横須賀に呼び込みたいのです。

子供が多いと、景気が良くなる?

子供が多いと、地域経済にもいい影響が期待できます。

よく「一番出費が多いのは子育て世代だ」と言われますが、私も息子が生まれてから、お金がかかってビックリでした。ミルクにオムツ、子供服、絵本、さらには子育てのために家も買いました。今後は教育費もかさみます。また、子供のためなら、七五三の写真や鯉のぼりセットなど、お金も使っちゃいます。孫のためならお爺ちゃんやお婆ちゃんの財布もゆるみます。

こうしたことから、「子供が多いときは景気もいい」という説もあります。高度成長期には団塊世代が子供、バブル期には団塊ジュニアが子供でした。米国でもベビーブーマーが好景気を支えました。この説の真偽は別としても、子育て世代を呼び込むこと&引き留めることは、ヨコスカ再浮上のカギなのです。

子育て支援は、近隣から人を呼び込む差別化戦略

「保育園難民」の多い都心では、保育園に入りやすいまちに引っ越す方も少なくないそうです。「子育てならヨコスカ」というブランド化ができれば、そこにひかれて移ってくる方もいるはず。お隣の横浜市は、保育園の待機児童数全国No.1で人口増に行政が追いついてません。営業先として狙い目です!

他にも英語教育、少人数教育、送迎保育ステーション*、病児保育、学童保育、キャリア教育など、「子育てならヨコスカ」と思わせる子育て支援メニューは色々あります。

また、こうした分野は「労働分配率」が高いのが特徴です。ハコモノはコンクリート代などモノにお金がかかりますが、子育て支援はヒトが資本。地域に雇用も生まれます。

次世代への投資は、「元本保証」「プライスレス」。

たとえ期待したほど経済効果がなくても、次世代への投資は子供たちの能力や体験として残ります。親の子育て負担が減れば児童虐待等の減少も期待できます。建設後も赤字を垂れ流し続けるハコモノより、ずっといい投資話だと思いませんか?

*「送迎保育ステーション」は、駅前に一時預かりの保育室を設置し、保護者は駅で子供を預けて、子供は駅から専用バスに乗って各地の保育園に通う仕組み。帰宅時も同様。流山市が導入済で横浜市も導入予定

イラスト提供 わんぱく http://kds.wanpaku.com/



まっとうな仕事が減っている！

ちゃんと暮らせるお金がもらえて、体を無理させないような、まっとうな仕事。欧米では「Decent Work」と呼びますが、そんなまっとうな仕事が減っています。横須賀は、特に減っています。工場も、市外への移転や規模縮小が相次いでいます。地元の商店も、ストロー現象で東京・横浜にお客さんを吸い上げられ、郊外の大型専門店にも打撃を受けて苦しんでいます。

数字でも明らかです。有効求人倍率を見ると、神奈川県は全国で下から2番目。しかも県内でも横須賀*1は特に低く、沖縄並みです。求職者3人に1人分しか仕事がない計算で、実態はもっと悪いとも言われます。また、失業率を見ても、横須賀市は6.2%で、神奈川県5.5%や全国4.4%と比べても高い水準です*2。では、みんなどうやって食べていけばいいのでしょうか？

第一の道 外からお金を呼び込む

一つの方法は、工場や商業施設などの企業誘致です。これまで前市長も現市長も一定の実績をあげてきましたが、もっと必要ですし、相手もあることでそんなに簡単ではありません。また、大きなモールができれば、雇用も生まれ、そこにお金は落ちるでしょうが、市内の他のお店は大きな打撃を受けます。

第二の道 中でお金をまわす

もう一つの方法は、地域の中でお金を循環させることです。「金は天下のまわりもの」と言いますが、市内でまわれば横須賀の景気は良くなるはず。しかし、東京・横浜にお金が出て行く一方では、景気が良くなるはずがありません。ですから、これには仕掛けが必要です。

全国の有効求人倍率

(2010年12月時点)

地域	倍率	順位
福井県	0.96	1位
富山県	0.80	2位
香川県	0.80	2位
青森県	0.42	45位
神奈川県	0.42	45位
沖縄県	0.31	47位
全国平均	0.57	—
横須賀*	0.35	—

*1 ハローワーク横須賀管内の数字で、三浦市を含み追浜行政センター・田浦行政センター管内を含まない。なお追浜・田浦管内と金沢区・逗子・葉山を含むハローワーク横浜南は0.37。*2 国政調査2005年度

地域経済に対する、私の思い

1999年、社会に出た私は「地域を元気にする仕事がしたい」と思い、地域情報誌の出版社に勤めました。お店にお客さんを呼ぶため、広告企画を考えたり、キャッチコピーや原稿を書いたり、やりがいのある仕事でした。でも「全国チェーンが各地に進出するお手伝い」という面もある仕事でした。別にチェーン店やその情報誌自体が悪いわけではありませんが、その頃に友人が語った言葉が私に決定的な影響を与えました。「日本中みんなが同じフリースを着て、同じコンビニのおにぎりを食べて、同じランチをしている。なんか気持ち悪い」。後に、三浦展氏が『ファスト風土化する日本』という本で取り上げた問題です。「自分は本当に地域に役立っているのか？ 地域の個性を無くしているんじゃないか？」と悩み、3年半勤めた会社を辞めました。そして、地域活性化の方法を自分なりに勉強してたどり着いたのが「地域通貨」と「コンパクトシティ」でした。特に地域通貨については、横浜市栄区の地域通貨イタッチ・プロジェクトの事務局長として、地域の商店会や市民団体を巻き込みながら2年にわたる実証実験を成功させました。

地域の方々を、横須賀市は応援できる

この活動を通して私が感じたことは、「地域活性化には、地域の方々の熱意に加え、行政の適切な支援が有効だ」ということです。だから、今回私は横須賀市政に取り組んでいます。地域の中でお金をまわすためには、地域通貨もありますし、市役所がもっと市内での調達に努めることもできます。調達のあり方自体も、野田市や川崎市のように「公契約条例」を導入して、労働者や下請け業者が低賃金労働や長時間労働にならないように仕向けることもできます。市内にまっとうな仕事を増やすため、横須賀市にできることはまだまだあるはず。地域の方々を、横須賀市は応援できる



↑地域通貨イタッチ

http://www.i-touch.hio/



↑地域通貨での買い物風景

みんなの声、続々。一部ご紹介いたします。

ちゃんと仕事はしているが、家賃が払えなくて車の中で生活している。失業すれば、生活保護や安い公営住宅もあるのに、自分みたいな人を応援する制度はないと言われた。自分もいつ生活保護に転落するか……(50代男性)

行政のスキマからこぼれ落ちる人が出ないようきめ細かい行政サービスが必要です。

政治が嫌になり、もう何年も選挙には行っていなかった。君のチラシを読んで、次は選挙に行こうと思った(男性)

市政に関心を持って頂き、本当に嬉しいです。みんなで横須賀を変えていきましょう！

姪が中1で母親を亡くした。たかがお弁当かも知れないが、当時、中1のお弁当づくりは大変重い意味があった。毎日大変だったと思う(女性)

子供にはのびのびと勉強できる時間と環境を整えてあげたいですね。横須賀市には、それができるはず！

「横須賀さん家の家計簿①」を読んだ。芸術劇場や美術館の予算を切ればお金が浮くのは事実だが、閉めれば街は荒廃しないか？疑問だ(男性)

ご懸念はよくわかります。ただ私は横須賀は既に崖っぷちだと思います。閉めずに市負担→NPO運営完全移行が理想です

応援してください！

- チラシのポスティング
- 駅でのチラシ手配り
- 事務作業
- ご自宅への看板設置

常時、様々な手が必要です。「応援してあげてもいいよ」と思って下さった方は、お気軽にご連絡下さい。

※政治献金・寄付は頂いていません。

小林のぶゆきの基本政策

見える 誰が何をどう決めてるのかわかんない……。市政をガラス張りにして「見える化」し、意思決定の過程も含め情報公開を進めます。

わかる 難しい説明をされてもよくわからない……。いま何が問題なのか。いま何が 필요한のか。チラシなどを通してわかりやすくお伝えします。

変わる これまで何も変わらなかった。どうせ変わらない……。現状が見え、問題がわかれば、変えられます。私たちが払った税金が、私たちに本当に必要なことに使われるよう、変えていきます。

今こそ横須賀を 私たちのものに。

横須賀市政について、私の活動について、みなさまのご意見、ご提案、ご感想、疑問などお寄せください。必ず私、小林伸行が自分で目を通します！

